



第10回 川でつながる発表会

参加無料

主催：新河岸川流域川づくり連絡会 共催：新河岸川流域総合治水対策協議会

平成26年12月14日(日)
10:55~16:00(受付10:30)
所沢市立所沢小学校 体育館
〒359-1121埼玉県所沢市所沢元町7番37号

新河岸川流域内の学生が、川、水、環境について、日頃の活動成果を発表し、さまざまな世代が川について交流する場として、発表会を開催いたします。

■プログラム

- 10:30 受付
- 10:55 開会
- 11:00 現地見学会
(12:00 昼食)
※昼食、上履きをご持参ください。
- 13:00 発表会/
学校(小学生~大学生)を
中心とした川、水、環境に
ついての発表
交流会/
学校、市民団体、行政の川、
水、環境についての取り組
みに関するパネル展示、講
義、クイズラリーなど
- 16:00 閉会

■現地見学会に参加希望の方は 申し込みが必要!(先着50名程度)

氏名・職業/学校・住所・電話番号をご記入のう
え、下記E-mailまたはFAXにてご連絡ください。

【お問合せ】

新河岸川流域川づくり連絡会事務局

【申込先】

新河岸川流域川づくり連絡会事務局

日本工営株式会社 都市・交通計画部 吉田

E-Mailsogo-bosai@dx.n-koei.co.jp

FAX:03-3238-8239



お問合せ

国土交通省荒川下流河川事務所調査課
TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346

日本工営(株)都市・交通計画部 担当 吉田 謙田
TEL:03-3238-8257 FAX:03-3238-8239

THE SHINGASHI BASIN NEWS 新河岸川流域しんぶん



VOL. 75

発行●新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所 調査課内)
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346
発行日●平成26年(2014)12月1日



切り絵 毛利将範

気になる水循環(12)

～「黒目川 de 大発見!! 川の魅力実感 in 朝霞」～

- 日 時：平成26年9月15日(月・祝)
10時00分～15時00分
- 会 場：朝霞市産業文化センター、朝霞県土
整備事務所、黒目川(浜崎黒目橋から
東林橋まで)
- 主催：埼玉県
- 共催：朝霞市



【開催概要】

都市部にありながら、良好な水質により鮎が生息する朝霞市の黒目川において、川の魅力を実感していただくイベントを開催しました。当日は、約5千人もの参加者で大変にぎわいました。参加者は、カヌー体験や生き物調査、投網体験のほか、降雨体験車による豪雨を体験したり、川の危険を知るヒヤリ・ハット講習に参加しました。さらに、鮎めし試食や鮎塩焼き体験により、川の恵みを満喫しました。(埼玉県水辺再生課より寄稿)

事務局だより

第2回連絡会が開催されました!

9月16日(火)に第2回新河岸川流域川づくり連絡会が開催されました。第2回連絡会では、12月に開催予定の「第10回川でつながる発表会」のテーマや現地見学会のコースについて協議しました。

また、勉強会では、事務局より、「水循環基本法」「雨水の利用の推進に関する法律」について情報提供を行い、参加者と意見交換を行いました。



第2回連絡会のようす

川づくり連絡会に参加してみませんか?

新河岸川流域川づくり連絡会は、原則第2火曜日または第2金曜日で年4回程度開催します。参加希望の方は、下記連絡先までお問い合わせください。(開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。)

しんぶん「里川」掲載情報を大募集します!

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙またはFAXにて下記連絡先までお寄せ下さい。

■連絡先

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)
〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346
URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>

秋といえば、紅葉です。赤い葉っぱに彩られた山の美しさを眺めていると、外に出て体を動かしたくなります。紅葉と秋の川を一度に見られる場所を探してみるのも良いかもしれません。
今号では、5～10月に開催した川まつりを中心に新河岸川流域内の活動状況を報告します。連載では、埼玉県が主催した黒目川の魅力を伝えるイベントの開催報告をします。特集では、水循環基本法が成立し、注目を集める「水循環」について行政の取り組みを紹介いたします。

目次

- P2~3 新河岸川流域の活動報告 in 2014
- P4 第10回川でつながる発表会 開催案内
連載：気になる水環境(12)
事務局だより
- P5 特集：水循環再生に向けたみんなの取り組み

新河岸川流域の活動報告in2014

今年度も、新河岸川流域の各地で市民を中心とした川の活動の1つとして川まつりが開催されました。今号では、5月から10月までに開催された川まつりの特徴や、元気に遊ぶ子どもたちのようすを中心に報告します。

5/25 空堀川 「第16回空堀川・川まつり」【主催】空堀川・川まつり実行委員会

「空堀川・川まつり」がからぼり広場で開催されました。大岱稲荷囃子が鳴り響き徐々に祭りの雰囲気になっていきました。日体桜華、市立第三中学、市立第七中学など近隣の学生もスタッフとして祭りを盛り上げている姿が印象的でした。午後になると毎年恒例のカモレースがはじまり、約100匹のカモが川を下ってくる様子に参加者の目は釘付けでした。終盤にさしかかると阿波踊りがはじまり、多くの観客を魅了していました。



カモレース ゴール付近のようす

7/20 落合川 「21周年記念『第20回わくわく川清掃&川あそび〜元気を送ろう!東北へ〜』」【主催】わくわく川清掃&川あそび実行委員会

「落合川・川まつり」が不動橋広場で開催されました。午前中は、川の清掃です。みんな年々少なくなったゴミを夢中になって探していました。午後になると、花火を打ち上げ、いよいよ川あそびのはじまりです。飛行機を引くトーイングカーのタイヤをボートにみたてたゴムボートに乗ったり、両岸に竹を渡して、落ちないように渡ったりとみんな思い思いのイベントに参加しました。会場では、東北支援グッズの紹介もありました。最後に、この川遊びで一番輝いていた人(水ガキ大賞)を発表して閉会となりました。



ゴムボート乗りのようす

7/21 東川 「東川・川まつり〜身近な川の調査(東川の川を調べてみよう)〜」【主催】東川を愛する会

「東川・川まつり」が所沢市立東中学校前で開催されました。まずは川の清掃で、埼玉県、所沢市の職員からも多数の参加があり、大活躍でした。掃除が終わったら、みんながお待ち兼ねの魚とりが始まりました。魚をとって終わりではなく、魚に詳しい方から特徴の説明などがあり、わからないことはなんでも教えていました。最後に、綺麗にした川でのカヌー体験がありました。なかなかまっすぐ進むことができずに苦労していましたが、みんなとても楽しそうでした。これからはじまる夏休みの良い思い出になったのではと思います。



魚を解説しているようす

7/26 柳瀬川(清瀬) 「2014 きよせの環境・川まつり」【主催】きよせの環境・川まつり実行委員会

「柳瀬川(清瀬)・川まつり」は清瀬市台田運動広場で開催されました。まずはみんな川に入りたい気持ちを我慢して、河畔で河川や環境の勉強をしました。行政、大学、企業、NPO法人など様々な団体が環境に関するそれぞれの取り組みを紹介するブースを出展しており、スタンプラリーと連動させることで、大変な賑わいとなっていました。そして、川遊びでは、ペットボトルを並べたお手製いかだで、川下りを楽しみました。最後は毎年恒例のいかだコンテストで、ペットボトルだけでなく、竹やドラム缶などを使用したアイデア溢れるいかだのお披露目で閉会となりました。来年は夏の思い出にいかだコンテストなんていかがでしょうか。



イカダ乗りのようす

7/27 不老川 「第15回鳥になろう 魚になろう『大森の池まつり』」【主催】大森の池まつり実行委員会

「不老川・川まつり」が大森調節池で開催されました。魚とり、水生生物とり、カヌー乗り、水鉄砲づくり、虫とりがまつりのはじまりとともに一斉に行われました。午前中に遊びまわっていたはずの子ども達ですが、午後その力は衰えることなく川遊びを楽しんでいました。その後、大雨が近づいているため、主催者の判断で早期閉会としました。みんなが帰った30分程度後に見事に大雨がきました。来年は、良い天気恵まれ、午後一杯子どもたちが遊ぶことを願います。



カヌー乗りのようす

7/27 柳瀬川(志木) 「こどもとおとなの自然塾『柳瀬川で遊ぼう』」【主催】NPO法人エコシティ志木、埼玉県生態系保護協会志木支部

「柳瀬川(志木)・川まつり」が志木中学校前の柳瀬川沿いで開催されました。はじめに河川敷や堤防のゴミを拾い開催会場をきれいにした後、川に入って魚とりをしました。魚とりを始める前にはスタッフから魚のとり方について説明がありました。草の生えているところに魚はよくいるそうです。魚とりの後は、笹舟をつくり川に流して遊びました。一斉に流した笹舟が流れる様子は、どこか懐かしさを感じさせてくれました。次の川渡りでは、大人たちに付き添われながら、子どもたちは川の流れる場所や浅い場所を自分で確認していました。最後に、とれた魚や柳瀬川にすむ水生生物についてスタッフから説明がありました。子どもたちは魚の入った水槽にくぎ付けになりながら説明を聞いていました。



魚とりのようす

8/3 北川 「第19回北山わんぱく夏まつり」【主催】第19回北山わんぱく夏祭り実行委員会

「北川・川まつり」が東村山市の北山公園で開催されました。開催当日は大変な猛暑にもかかわらず、子供達や家族連れの住民が多数来場し賑わっていました。まつりの催物の中でもカヌー遊びが特に人気で、カヌーの予約券を求める人々による長い行列ができていました。午後からは八国山ミニハイクが行われ、親子で昆虫採集や山登りを楽しんでいました。また、イベントへの参加者だけではなく、主催側の方々も地域住民との触れ合いを楽しんでいるようでした。



魚とりのようす

8/3 黒目川(新座) 「第16回わいわい川遊び『アユの棲む黒目川をきれいにして川で遊ぼう』」【主催】黒目川流域川づくり懇談会

「黒目川(新座)・川まつり」が栗原1丁目公園で開催されました。まずは川で遊ぶ前に川清掃をしました。次の魚とりでは、トビケラの幼虫を捕まえた人がいました。主催者によると、トビケラはきれいな水を好むようで、きれいと言われる黒目川においてもここ数年は川まつりで捕まえた人はいなかったとのことでした。タイヤボートや水中輪投げで川遊びを楽しんだ後は、スイカ割りです。スイカを割るのは苦労していましたが、その分味は格別においしかったかと思えます。



魚とりのようす

10/18 越戸川 「〜和光新発見!! 水辺再生・川あそび!!〜 第18回越戸川まつり」【主催】和光自然環境を守る会

越戸川まつりは赤池親水公園で開催されました。会場に行くと、越戸川の紹介パネルが迎えてくれます。出店も多く賑わっており、特にみどりのそよ風児童合唱団の歌と劇に人集りができていました。一段落してから、魚とりやボート乗りと子ども達は目を輝かせながら思い思いに楽しんでいました。川や環境についても学べるブースもあり、親子連れだけでなく充実した時間を過ごせたと思います。毎年開催しておりますので、みなさん足を運んでみてはいかがでしょうか。



ゴムボート乗りのようす

10/26 白子川 「第14回白子川源流まつり」【主催】白子川源流まつり実行委員会

「第14回白子川源流まつり」は大泉井頭公園で開催されました。川に入るには少し涼しい時期ですが、様々な催しやブースがまつりを盛り上げていました。水の流れ(水循環)を遊びながら、学べるすろくや環境に配慮した日頃の取り組みを掲示するコーナーがありました。また、今年、白子川でアユを放流したこともあり、座談会という形式でアユに関する勉強をしました。その後、まつりのメインイベントである練馬区立大泉南小学校の児童による白子川調べの発表があり、閉会となりました。元気な発表にみんなの心が癒されました。



水循環スゴロクの様す

※今回は流域内での活動の一部を紹介しました。流域内ではその他にも様々な活動が実施されています。





水循環再生と「水の日」について

水循環とは、海が熱せられ、雲ができ、雨が降り、川を流れ、人が利用し、また川を流れ海に戻るといった一連の流れのことをいいます。この一連の流れは、山や川などをたどる自然系のもので、人々の生活の中をたどる人工系のものに分けることができます。水循環再生とは、利水・治水・環境にわたる水の諸問題を解決し、健全な水循環を構築することをいいます。

今年度は健全な水循環を維持・回復することを目的とした法律である「水循環基本法」が公布され、国、地方公共団体、事業者、国民が一体となり、健全な水循環を維持・回復するための施策を進めていくこととなりました。

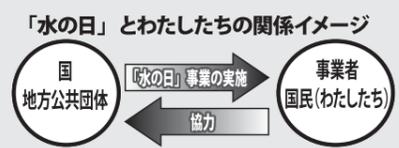
今号では、健全な水循環の重要性を広くみなさんに知っていただくための事業を実施する日として「水循環基本法」において定められた「水の日」について、今年行われた取り組みを紹介します。

① 水の日ってなに？

昭和52年に旧国土庁（現国土交通省）が一年の中で最も水の使用量が多い8月に節水を呼びかけるために、8月1日を「水の日」とし、「水の日」を初日とする1週間を「水の週間」としました。水循環基本法第10条では、「水の日」を8月1日と規定するとともに、国及び地方公共団体は「水の日」の趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならないとされています。

① 「水の日」と私たちの関係は？

水循環基本法において、国、地方公共団体は「水循環に関する施策を策定・実施の責務」（第4、5条）があり、事業者、国民（わたしたち）は「水の適正利用と健全な水循環への配慮に努め、水循環施策へ協力する責務」（第6、7条）があることが定められています。そのため、事業者や国民（わたしたち）は国や地方公共団体が「水の日」に実施する取り組みへ参加するなどして協力する必要があります。



「水循環基本法」のポイント

- 基本理念（第3条）** (出典：国土交通省HP)
 - ① 水は、水循環の過程において、地球上の生命を育み、国民生活及び産業活動に重要な役割
 - ② 水が国民共有の貴重な財産であり、公共性の高いもの
 - ③ 健全な水循環の維持または回復のための取り組みの推進
 - ④ 流域として総合的かつ一体的な管理
 - ⑤ 水循環に関する国際的協調
- 定義（第2条）**

【水循環】水が、蒸発、降水、流下又は浸透により、海域等に至る過程で、地表水、地下水として河川の流域を中心に循環すること。

【健全な水循環】人の活動と環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環。
- 水循環基本計画（第13条）**

政府は、水循環に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、水循環基本計画を定める。
- 水循環政策本部（第22条～第30条）**

水循環に関する施策を集中的かつ総合的に推進するため、内閣に水循環政策本部を置き、当該本部の長には、内閣総理大臣を充てる。
- その他**
 - ① 年次報告（第12条） 国会報告
 - ② 水の日（第10条） 水の日を8月1日

平成26年「水の日」に行われた取り組み紹介！

親子で水循環を学ぶことができる ★水のワークショップ・展示会

日程：8月12日～14日 対象：小学生とその親
場所：東京国際フォーラム 主催：国土交通省水管理・国土保全局

テーマ：水のハッピーデー ～水について学ぼう～
内容：映像、実験、ワークショップなどの様々な体験を通して、水について学びます。

【東京都水道局】
・自分が水になったかのような目線で、蛇口から出てくる水がどこから来ているのか知ることができる映像の上映が行われました。

【一般社団法人 日本治山治水協会】
・水の味の違いを比較することで、森が水を濾過する働きを知ることができる試飲の体験企画が行われました。

【東京都下水道局】
・油が冷えて固まるとどうなるかなどの実験を通じ、下水道のためにできることを学ぶ体験企画が行われました。

★展示
・企業、団体、行政機関、NPO 法人による上手な水の使い方などを知るパネルの展示が行われました。

全国の学生が水について考える ★全日本中学生水の作文コンクール

応募時期：5月 対象：中学生 主催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県

テーマ：水について考える！
内容：中学生が暮らしの中で体験している水にまつわる話や、家族、先生から学び聞いた話、自分で調べたことなどをもとに、水についての考えや今後の水の使い方をまとめた作文のコンクールを実施しています。今年度は36回目で、全国から331校の参加がありました。

＜主な作文の題材＞

- ・水と災害（集中豪雨・濁水）
- ・水の流れ
- ・きれいな水を使えない国の人たち
- ・水を利用するための施設を運用・管理する人たち
- ・米づくりと水
- ・水を守る（溜池、荒川） など

※第26回～第35回までの作品は国土交通省HPで閲覧することができます。「全日本中学生水の作文コンクール」で検索をお願いします。

事業者の色々な取組を知ることができる ★「水の日」イベント

日程：8月1日 対象：一般
場所：国連大学前広場 主催：環境省水・大気環境局

テーマ：官民連携により、「水環境保全」等をテーマとして、広く国民へ「水の重要性」を呼びかける
内容：開始宣言・挨拶、協賛企業による講演など

【第1部 イベント開始宣言など】
「water project」は将来にわたって水資源の保全に取り組む官民連携によるプロジェクトです。このプロジェクトでは、国民に3つのアクションを呼びかけています。

①「みんなの水」について ②「みんなの水」について ③少し意識を変えて大切に
●知ろう！ ●考えよう！ ●使おう！

【第2部 協賛企業による講演など】

- ・身近な生活以外で産業にも水が必要なことなど水資源の大切さを伝えるため、小学校などで出前授業を実施していること
- ・商品の製造過程で、工場排水の浄化に微生物を利用することで、自然浄化作用による安全で効率的な処理をしていること
- ・工場排水を池のようなところに溜め、そこに生息する魚などに影響がないか確認してから排水していること
- ・ペットボトルを製造するために石油を消費することに着目し、ボトル回収型の販売形式で資源を大切にしていること

★展示
・各企業が取り組む水資源の保全などに関する活動の展示が行われました。

水循環の最先端を知ることができる ★水を考えるつどい

日程：8月1日 対象：一般
場所：砂防会館別館会議室 主催：水循環政策本部、国土交通省、環境省、水の週間実行委員会

テーマ：健全な水循環により、水の恵みを楽しむ社会を目指して！
内容：全日本中学生水の作文コンクール表彰式
東京大学生産技術研究所 沖大幹教授による基調講演
「地球をめぐる水と水をめぐる人々」

【基調講演の主な内容】

- ・水の平均滞留時間（とどまっている平均時間）と水循環について、地球規模の水循環を明らかにすることで、水資源の問題解決を図ることが重要である。
- ・ひとつ製品ができるまでに水をどの程度必要としたかを表した使用水量試算（ウォーターフットプリント）の国際標準化に向けて取り組んでいる。
- ・温暖化と世界の水需要を組み込めるシミュレーションを通して、洪水や渇水の問題解決を図ることが重要である。

※本紙面に掲載の情報は、平成26年に実施された内容を基に作成しております。また、都道府県においても様々な取り組みが行われています。来年の情報は個別のHPで取得するようにお願いします。